

第1章「高齢期作業療法の基礎」

GIO
一般教育目標

1. 高齢期作業療法の実践に備えるために、必要な基礎となる事項について習得する。

SBO
行動目標

- 1-1) 高齢社会になった経緯および社会施策の変化の経緯について説明できる。
- ①高齢者および高齢社会の定義を友人に説明できる。
 - ②わが国が超高齢社会になった要因を100字程度にまとめることができる。
 - ③高齢者保健福祉に関する制度の変遷に関する大きな流れをクラスの中で発表できる。
- 1-2) 高齢期の心身の特徴および現代社会における高齢者の生活について、クラス討議に参加できる。
- ④人間が必ず迎える高齢期の心身機能の変化について箇条書きすることができる。
 - ⑤心身機能の低下によっておこる家庭および社会的現象について、グループで話し合うことができる。
 - ⑥高齢者の社会参加や家族関係についてクラスの中で発表できる。
 - ⑦各種報道資料、メディアを通し家庭・社会の現状実態を調べ、クラス討議に参加できる。
- 1-3) 高齢者に関する社会制度について、口述あるいは記述することができる。
- ⑧社会制度の体系を友人に説明できるとともに、特に高齢者に関係が深い法律の名称をあげることができる。
 - ⑨それぞれの社会制度について、理念を100字程度にまとめることができる。
- 1-4) 高齢期障害を類別できるとともに、高齢期作業療法の考え方を話し合うことができる。
- ⑩高齢者の生理的・身体的特徴について、グループの中で話し合うことができる。
 - ⑪高齢者におこりやすい症候について、グループの中で話し合うことができる。
 - ⑫高齢期の精神的・心理的特徴について、グループの中で話し合うことができる。
- 1-5) 高齢期の心身の特徴および高齢者に多い疾患について説明できる。
- ⑬高齢期に多い循環器疾患を3つあげ説明できる。
 - ⑭高齢期に多い呼吸器疾患を3つあげ説明できる。
 - ⑮高齢期に多い神経疾患あるいは運動器疾患を3つあげ説明できる。
 - ⑯高齢期に多い内分泌代謝疾患あるいは精神疾患を3つあげ説明できる。
 - ⑰高齢期に多い皮膚疾患あるいは眼疾患を3つあげ説明できる。
- 1-6) 高齢期作業療法において重要な位置を占める認知症について、基礎知識を表現あるいは口述することができる。
- ⑱認知症とはどういうものか定義・診断基準などを、クラスの仲間同士で説明し合うことができる。
 - ⑲認知症の分類や症状を医療系以外の友人に説明できる。
 - ⑳代表的な認知症疾患を3つあげ、それらの特徴を医療系以外の友人に説明できる。

第2章「高齢期作業療法の実践」

GIO
一般教育目標

2. 高齢期の作業療法を有効に実践できるようになるために、その実践過程の基本的枠組みを理解する。

SBO
行動目標

2-1) 作業療法の対象者は、尊厳が守られなければならない存在であることを具体的に述べることができる。

- ① 対人支援にあたっての根本理解について、クラスの中で意見を述べ合える。
- ② 権利の主体者としての存在を支えることについて、クラスの中で意見を述べ合える。
- ③ 尊厳保持を実践するための前提について友人に説明できる。
- ④ 本来の作業療法実践と尊厳の実現について友人と意見交換できる。

2-2) 高齢者の生活の見方についてクラス討議に参加できる。

- ⑤ 生活とは何かを友人と話し合える。
- ⑥ 生活の実態をとらえることの重要性について、クラスの中で発表できる。
- ⑦ 高齢者の生活の具体的な見方・とらえ方について友人に説明できる。

2-3) 各病期における高齢者に対する作業療法の過程およびリハビリテーションマネジメントについて説明することができる。

- ⑧ 病期の考え方で、高齢者がたどる病期の流れを友人と意見交換できる。
- ⑨ 各病期の特徴と、それに応じた治療・援助内容をクラスの中で発表できる。
- ⑩ 生活期リハの現状における課題について友人に説明できる。
- ⑪ リハマネジメントと自立支援型介護について家族に説明できる。

2-4) 実施場所に応じた治療・援助内容について、事例をあげて表現あるいは口述することができる。

- ⑫ 医療保険における病床種別および介護保険における施設種別を列挙できる。
- ⑬ 一般病院と療養型病床の違いを友人に説明できる。
- ⑭ 一般病院での作業療法と療養型病床での作業療法について友人と意見交換できる。
- ⑮ 認知症病棟の対象者と、そこでの作業療法について友人に説明できる。
- ⑯ 介護老人保健施設と介護老人福祉施設の役割の特徴について友人に説明できる。
- ⑰ 在宅支援のあり方をふまえ、作業療法士がかかわる主な在宅サービスについて友人と意見交換できる。
- ⑱ ケアマネジメントの要点と作業療法のあり方について友人と意見交換できる。

2-5) 一般高齢者および認知症高齢者に対する作業療法と介護予防との関連を述べることができる。

- ⑲ 一般高齢者に対する作業療法について、クラスの中で意見交換できる。
- ⑳ 介護予防とは何か、また介護予防と作業療法の関係について友人と話し合える。
- ㉑ 今までの介護予防とこれからの介護予防について、クラスの中で意見を述べ合える。
- ㉒ 認知症高齢者に対する作業療法について、クラスの中で意見を述べ合える。

第3章「高齢期作業療法の実践事例」

● I 健康高齢者のケース



地域における作業療法士としての役割を果たせるようになるために、健康高齢者の介護予防について必要な知識・技術を身につけることができる。



- 1) 健康高齢者の介護予防への目的を理解し、プログラムを立案することができる。
 - ①健康高齢者の介護予防の必要性を説明できる。
 - ②高齢者の介護予防評価により問題点を抽出し、目標を設定できる。
 - ③目標を達成するためのプログラムを立案することができる。
- 2) 生活不活発の悪循環から良循環への転換の重要性を口述することができる。
 - ④生活不活発の悪循環を引きおこす要因について説明できる。
 - ⑤良循環への転換について心身機能、生活、社会的機能の側面からイメージできる。
- 3) 介護予防の継続支援の重要性をクラスの中で説明できる。
 - ⑥介護予防の継続支援の重要性について作業療法士の役割を例示できる。

● II 要支援者のケース——介護支援専門員の立場から



要支援者への適切な作業療法実践を可能とするために、他・多職種とのよりよい連携について習得することができる。



- 1) 要支援者の生活像について表現することができる。
 - ①要支援者がどのように生活しているかをイメージできる。
 - ②要支援者がかかえている生活のしづらさをイメージできる。
 - ③要支援者の生活のしづらさの要因を説明できる。
- 2) 要支援者の生活のしづらさに対して適切な援助をすることができる。
 - ④生活範囲におけるさまざまな環境に、残存能力を適合させることができる。
 - ⑤対象者のペースに合わせ、段階的な対応ができたかどうかチェックすることができる。
- 3) 要支援者の望む生活を援助するため、連携することができる。
 - ⑥対象者が望む生活を把握したうえで、連携の必要性を説明できる。
 - ⑦援助チームスタッフ間で目標を共有する方法について説明できる。

● III 要介護者のケース——医療から在宅まで



医療保険(回復期リハビリテーション病棟)と介護保険(介護老人保健施設, 通所リハビリテーション, 訪問リハビリテーション)で適切な作業療法が実践できるために, それぞれの施設における作業療法士の役割を認識する。



- 1) 回復期リハビリテーション病棟における作業療法士の役割をクラスの中で述べることができる。
 - ①回復期リハ病棟での C さんへの治療・指導・援助を知ったうえで内容をイメージできる。
 - ②回復期リハ病棟の役割と早期リハの課題を説明できる。
 - ③回復期リハ病棟における作業療法士の役割を説明できる。
- 2) 介護老人保健施設における作業療法士の役割についてクラス討議に参加できる。
 - ④介護老人保健施設入所中の C さんへの治療・指導・援助を知ったうえで内容をイメージできる。
 - ⑤家族が対象者の現状を理解することについて, 支援する必要性を説明できる。
 - ⑥多職種協働の必要性を説明できる。
- 3) 通所リハビリテーションにおける作業療法士の役割を友人に説明できる。
 - ⑦通所リハの機能を口述できる。
 - ⑧通所リハでの C さんへの治療・指導・援助の内容を知ったうえで内容をイメージできる。
 - ⑨通所リハにおける作業療法士の役割を説明できる。
- 4) 訪問リハビリテーションにおける作業療法士の役割を家族に説明できる。
 - ⑩訪問リハの特徴を口述できる。
 - ⑪訪問リハでの C さんへの治療・指導・援助の内容を知ったうえで内容をイメージできる。
 - ⑫訪問リハにおける作業療法士の役割を説明できる。

● IV 軽度の認知症高齢者のケース



軽度の認知症高齢者に作業療法を実践するために, 必要な知識・技術を身につけ, 関連機関との連携の重要性を認識する。



- 1) 軽度認知症の疾患・障害・臨床像について説明できる。
 - ①D さんの状態から軽度認知症の臨床像をイメージできる。
 - ②ICF の視点に基づいた軽度の認知障害構造を整理し, 理解できる。
- 2) 軽度認知症における実践過程の評価, 作業療法立案, 実践に必要な知識・技術・態度について示すことができる。
 - ③軽度認知症に対する作業療法の適切な評価項目をあげることができる。
 - ④評価結果に基づく課題項目を抽出することができる。
 - ⑤D さんの意思を遂行する活動や, 参加に関する作業療法の重要性を説明できる。
- 3) 予後・予測に基づいたリハビリテーションゴールを設定し, 関連機関との連携の重要性を述べることができる。
 - ⑥将来を見据え, リハのゴールを設定する重要性を述べることができる。
 - ⑦D さんを取りまく環境を理解し, 家族・関連機関との連携の重要性を説明できる。
 - ⑧病期・病態に応じた医療・介護サービスを受けられるよう, 好循環の重要性を説明できる。

● V 中等度の認知症高齢者のケース



中等度認知症高齢者に対する効果的な作業療法の実践を可能にするために、認知症高齢者 1 人ひとりの臨床(障害)像の理解、その人らしさの引き出し、チームアプローチを展開することの重要性について理解することができる。



- 1) 中等度認知症高齢者の臨床(障害)像と環境やかかわり方の重要性を解説することができる。
 - ① E さんの状況から、認知症高齢者の障害像を説明できる。
 - ② 認知症症状は状況によって変動することを説明できる。
 - ③ 行動症状の出現機序は理解可能であることを説明できる。
 - ④ 行動症状に対するケアの考え方について説明できる。
- 2) その人らしさを引き出し活用するアプローチの重要性と効果を、クラスの中で意見交換できる。
 - ⑤ E さんのその人らしさについて説明できるとともに、その人らしさを見つけるための視点と考え方について説明できる。
 - ⑥ なぜ E さんに“手伝い作業”を導入したかを説明できる。
 - ⑦ E さんの変化(経過)と作業が及ぼした効果について説明できる。
 - ⑧ 不安感の解消と残存能力の活用の重要性と、その効果について説明できる。
 - ⑨ チームアプローチの重要性を説明できる。

● VI 重度の認知症から寝たきりに移行したケース



重度の認知の障害状況の改善の可能性を認識できるために、重度の認知症高齢者に生じやすい廃用状態とその悪循環の影響を理解し、多側面からのアプローチおよび残存能力を最大限に活用したアプローチを学ぶ。



- 1) 重度の認知症から寝たきりに移行する臨床像の経緯について、その理由を口述することができる。
 - ① 入所までの経過から、重度の認知症から寝たきりへ移行する臨床像をイメージできる。
 - ② “つくられた寝たきり状態”から“真の寝たきり状態”に移行する要因を説明できる。
 - ③ 人が寝たきり状態で放置されることによる影響を説明できる。
 - ④ 機能の向上には時間がかかるが、機能低下は簡単におこることを説明できる。
- 2) 重度の認知症であっても働きかけ次第で障害状況が改善する可能性があることを、具体的に示すことができる。
 - ⑤ F さんの作業療法経過から、多側面からのアプローチの重要性を説明できる。
 - ⑥ 適切な刺激材料を用いて感覚入力することの重要性を説明できる。
 - ⑦ 刺激材料の選択にあたって、生活史および趣味などの個人因子との関連を説明できる。
 - ⑧ 残存能力を見つける視点と考え方、それを強化することの重要性を、実践課程を通して説明できる。
 - ⑨ F さんの生活圏を拡大することの重要性を、事例をあげて説明できる。
 - ⑩ 家族の感情面に訴えかける対象者の変化をもたらすアプローチの重要性を説明できる。

● VII 終末期においてアクティビティが影響を与えたケース



終末期の作業療法士の役割について認識するために、終末期の高齢者がその人らしく生きられるよう援助する重要性について習得する。



- 1) 終末期にある対象者の心理状態について説明できる。
 - ①受け身的な心理的活動性から、自発的な心理的活動性へと変化していった過程について説明できる。
 - ②ホスピスにおける患者の心理状態について気づいた点を話し合うことができる。
- 2) アクティビティのもたらす心理的効果の重要性についてクラスの中で説明できる。
 - ③Gさんにとって、革細工が余暇活動としての“楽しみ”から“役割”や“いきがい”と変化していく過程における心理的活動性と身体的活動性の密接な関係について説明できる。
 - ④アクティビティのもたらした心理的効果について列挙できる。
- 3) 終末期における作業療法士の大切と思われる役割について 100 字程度にまとめることができる。
 - ⑤Gさんに対する医療チームの全体目標達成へ向けての作業療法士の取り組み(目標・実施計画)について説明できる。
 - ⑥作業療法士が、Gさんに“楽しみ”や興味をもてるものを探すために行ったことについて説明できる。
 - ⑦終末期における作業療法士の役割について説明できる。